

「A」次の文の(訳)の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1 良秀がよぢり不動とて、今に人々めで合へり。(宇治拾遺物語)

(訳) 「良秀のよぢり不動」といって、今でも人々が「」合っている。

①同情し ②ほめ ③けなし ④感嘆し 1 「」

2 せちによばひければあひにけり。その朝に文もおこせず。夜まで音もせず。(大和物語)

(訳) (平中が) しきりに言い寄ったので契った。その翌朝に手紙も「」ない。夜になるまで音沙汰もない。

①読ま ②用意し ③したため ④よこさ 2 「」

3 絵に描ける楊貴妃の容貌は、いみじき絵師といへども、筆限りありければ、いとにほひ少なし。(源氏物語)

(訳) 絵に描いた楊貴妃の容貌は、優れた絵師でも、筆に限界があるので、じつに「」が少ない。

①表現の魅力 ②ちよつとした細やかさ ③大胆さ ④つややかな美しさ 3 「」

4 初心の人、二つの矢を持つことなかれ。後の矢を頼みて、初めの矢になほざりの心あり。(徒然草)

(訳) (弓の) 初心者は、二本の矢を持つてはならない。後の矢を「」て、初めの矢(を射ること)においていい加減な気持ちが生まれる。

①あてにし ②大事にし ③気にし ④温存し 4 「」

5 物も聞こし召さず、御遊びなどもなかりけり。(竹取物語)

(訳) 何も召し上がらず、「」などもなさらなかった。

①戸外での遊び ②宮中の催事 ③書の楽しみ ④管絃の遊び 5 「」

6 大傘一つまうけよ。(落窪物語)

(訳) 大きな傘を一つ「」。

①準備しろ ②修理しろ ③処分しろ ④工夫しろ 6 「」

7 ならはぬ鄙の住まひこそ、かねて思ふも悲しけれ。(平家物語)

(訳) 「」ない田舎の生活は、あらかじめ想像するのも悲しいことだ。

①好ま ②知ら ③慣れ ④感じ 7 「」

8 おのづから御心移ろひて、こよなう思し慰むやうなるも、あはれなるわざなりけり。(源氏物語)

(訳) (桐壺の更衣が亡くなり沈んでいた帝は) 自然とお心が(藤壺へ)「」て、この上なくお気持ちが慰められておいでのようなもの、しみじみとしたことであった。

①移っ ②片寄っ ③表れ ④定まっ 8 「」

「B」次の文の(訳)の「」に入る語句を答えよ。

9 沖より舟どものうたひののしりて漕ぎ行くなども聞こゆ。(源氏物語)

(訳) 沖を通っていくつもの舟が大声で歌いながら漕いで行くのなんかも「」。

9 「」

10 下簾の狭間の開きたるより、この男まもれば、わが妻に似たり。(大和物語)

(訳) (牛車の) 下簾のすきまの開いている所から、この男が(車の中を)「」と、自分の妻に似ている。

10 「」

11 あはれ今年の秋もいぬめり(千載和歌集)

(訳) ああ、今年の秋も(むなしく)「」ようだ。

11 「」

12 この猫を北面にも出ださず、思ひかしづく。(更級日記)

(訳) この猫を北向きの部屋(＝使用人の部屋)にも出さず、心にかけて「」。

12 「」

解答

【新三年生用】 古文単語383訂版 P 72 ～ P 79

- 1 「④」
- 2 「④」
- 3 「④」
- 4 「①」
- 5 「④」
- 6 「①」
- 7 「③」
- 8 「①」
- 9 「聞こえる」
- 10 「見つめる」
- 11 「過ぎ去る」
- 12 「大切に世話をする」